

「固定資産税GISを活用した次年度向け賦課事務のさらなる効率化に向けた挑戦

～基幹系税務システムとの準リアルタイム連携の実現を通して～

広島県福山市企画財政局税務部資産税課

主事 森原 章文

主事 岡田 実代

1 福山市の固定資産税GISの特徴

(1) 基幹系税務システムとの双方向の準リアルタイム連携の実現

① 基幹系税務システムには登記に係る異動更新（表示、権利）等の大量一括情報を入力し、固定資産税GISには画地認定や滅失家屋等の視覚的な入力処理に適している情報を入力。双方がアクセス可能な領域を設けて、20分間隔で双方のデータの更新を行う。

② 利点

- ・双方のシステムデータが常に最新となり、次年度向け賦課業務における情報の正確性が確保される。（情報鮮度の確保）
- ・双方のシステムの特徴・機能を最大限活かした入力が可能で、連携先システムに依存しない運用が可能となる。（独立性の確保）

③ 構築・運用にあたっての留意点

- ・同一物件を同時に更新しないような運用ルールの構築。（整合性の確保）
- ・連携先システムがトラブル等でデータの取り込みが出来ない場合、以降の連携をストップする仕組みの構築。（業務継続性の確保）
- ・基幹系税務システムにおいて、オンライン入力と同様のエラーを実装する等入力制限の設定。（一貫性の確保）

(2) 固定資産税GISを主体とした情報管理

① あらゆる課税情報を固定資産税GISに集約し地理的な情報として可視化し、担当者間の

情報の共有化を図る。（情報の可視化）

② 課税に必要な情報を集約することで、事務処理スピードの向上につながり、現地調査準備から評価額算出までの各プロセスが効率的に行える。（事務の効率化）

(3) 職員で対応できる仕組み

① 地番図

OCR座標入力機能を活用して、市職員が分筆処理を行うことで、地番図の修正異動が短期間で反映するため、後続の事務処理時間が確保され、事務の平準化につながる。

② 家屋図

家屋評価システムから出力されたSIMAデータを市職員が容易に配置でき、土地の画地認定や住宅認定が迅速に行える。

2 特徴的な機能の紹介

(1) OCR座標入力機能（OCR分筆）

(2) 画地計測機能

(3) 影響面積による補正率の自動取得機能

(4) 住宅用地認定機能

(5) 家屋外形SIMA取込み機能

(6) 家屋滅失処理機能

3 さらなる改善にむけて

(1) 現地調査用タブレット型端末の有効利用（情報通信ネットワークの利用）

情報セキュリティの確保を検討しつつ、現地で最新情報をリアルタイムに確認できるよう情報通信ネットワークの利用に向けて検討していきたい。

(2) 地理情報の高度利用化

建築基準法の道路情報等土地評価に必要な情報の収集を図り、固定資産税GISで活用していく。また、個人情報等に留意しつつ、土地・家屋の現況情報の都市計画、災害時の対応等への高度利用を検討していく。